

第 53 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	小山ゼミ	チーム名	フォーエバーラブ
タイトル	幸福と貯蓄		
テーマ群	b) 財政・金融 g) その他		
メンバー	中田大智、西森一葉、三木勇登、泉陽人、埴岡央嗣		
研究計画内容	<p>【研究背景】</p> <p>貯蓄率は幸福度に影響を与えるのかについて興味を持ちました。高い貯蓄率は、将来の安定感や経済的なセキュリティを提供し、それによって幸福感が向上することがあります。こうした世の中になるためにはどうすればよいか知りたくこの研究テーマになりました。</p> <p>【研究内容】</p> <p>貯蓄と幸福の関係性は、経済的安定と幸福感の相関が関わっています。十分な貯蓄があることで経済的な不安やストレスが減少し、生活の安定感が増します。また、将来への安心感や不確実性への心理的な安心感も貯蓄によって得られると指摘されています。一方で、適切な範囲での消費も幸福感に寄与し、貯蓄と消費のバランスが重要です。貯蓄の目的(教育、健康、旅行など)や心理的要因、社会的比較が幸福感に与える影響も研究されています。これらの要素は個人の状況や価値観によって異なり、文化的背景も影響しています。このように貯蓄と幸福は密接に関わり合っています。</p> <p>【期待される効果】</p> <p>幸福と貯蓄の関係を研究すると期待される効果は、経済的安定感です。貯蓄があると、突如の支出や緊急の出費に対処できる安心感が生まれます。これにより、経済的なストレスが軽減され、幸福感が向上する傾向があります。また、自己達成感も得られます。貯蓄目標を達成することは、自己達成感をもたらします。目標を設定し、それを達成する過程で幸福感を感じることができます。貯蓄は、生活の質向上にも影響します。貯蓄を通じて、将来の大きな目標や夢を実現するための資金を準備することができます。これは生活の質を向上させ、幸福感を高める要因となります。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 佐野美智子「幸せは消費を促進するのか？ 貯蓄を促進するのか？」		